

でんき部会々報

<http://www.kgudenki.jp>

No. 39

発行責任者
山川 和夫



この1年を振り返って

会長 山川 和夫

(電気77年度卒)



卒業生の皆様お元気ですか。日頃は部会活動にご支援、ご協力を頂きありがとうございます。昨年、現岡田顧問から会長職を引き継ぎ、早いもので1年が経ちました。昨年10月末には、会長に就任して初めての部会総会を開催いたしました。総会では、理工学部理工学科電気学系の専任講師で、新進気鋭の研究者であります石坂雄平先生に最先端の研究テーマで

話を頂きました。14社の参加を頂き、その後の懇親会では、現役3年生、先生方、卒業生、人事担当の皆様の間で積極的な情報交換等で大いに盛り上がりしました。回を重ねる毎に充実した企画となり、在校生の就職活動でも実績が伴ってきたと伺っております。3月には、大学卒業式に合わせ「卒業祝賀会兼新入会員歓迎会」を山下公園前の神奈川県民ホール6階の英一番館で開催しました。今年、改組して初めてになります理工学部理工学科電気学系の卒業生を含め、学部卒業生、大学院修了生等、57名の方を燦葉会でんき部会の新入会員として迎えました。祝賀会の中で、海外の学会で論文を発表された2名の方に「国際会議発表奨

励賞」を部会より贈呈し表彰いたしました。昨年の部会評議員で変更の決議を頂きました部会名につきましては、昨年は周知期間としておりましたが、燦葉会本部の代議員会で正式に承認を頂きましたので、卒業祝賀会から「でんき部会」の名称を使用開始いたしました。昨年、電気のみならず大学の発展に大変尽力された川上親孝先生が亡くなられました。また、現役でご活躍していた加藤ひとし先生も亡くなられ、一昨年の松本茂樹先生の訃報に続き、残念なお知らせをしなければなりません。心よりご冥福をお祈りしたいと思います。川上先生につきましては、電気13回卒業の福本先輩に弔文をお願いいたしました。技術革新と2020年のオリンピック開催に向かって、世の中が目まぐるしく変化している昨今ですが、母校大も大きく変化しております。横浜・金沢八景キャンパスには、竣工したばかりの新しい3号館が入った直ぐのところになりました。是非機会がございましたら、横浜・金沢八景キャンパス(六浦キャンパス)をお訪ねください。部会では、燦葉会本部、他部会、大学先生方、学生会と密接な関係を構築し、魅力ある同窓会を常に考え活動を行っております。皆様の積極的なご意見と、更なるご協力、ご支援をお願い致します。終わりに、会員の皆様のご健勝とますますのご発展、ご活躍をお祈り申し上げます。

2016年度 関東学院大学 理工学部 理工学科 電気学系 卒業祝賀会
於 神奈川県民ホール「英一番館」

理工学部理工学科電気学系の近況について

電気学系長 簗 弘幸

卒業生の皆様、ご無沙汰致しております。2014年度より理工学部理工学科電気学系の世話役を仰せつかっております、簗弘幸(みのひろゆき)と申します。誠に不慣れ且つ非力ながら、皆様のご支援、ご協力により、これまで3年間無事に業務を遂行させていただくことができましたこと、厚くお礼申し上げます。本年度も、皆様の母校をより発展させるため、精進してまいりたいと考えております。

さて、恒例ですが、学系の近況をお知らせいたしたく存じます。2017年度(4月の段階で)電気学系の学部生入学者数につきましては、電気・電子コース59名(定員45名)、健康・スポーツ計測コース22名(定員20名)、計81名であり、2年生から4年生の在籍数209名を加えて、電気学系の在籍者総数は、290名となりました。また、そのほかに工学部電気電子情報工学科の学生が4名在籍しております。一方、大学院工学研究科電気工学専攻への入学者数は、博士前期課程2名、総合工学専攻博士後期課程1名であり、在籍者数総勢前期課程4名、後期課程3名となりました。また、2016年度末に、理工学部改組後をはじめの卒業生を輩出し、とりわけ、新コースの健康・スポーツ計測コースの卒業生を世に輩出した

しましたことは、教職員一同望外の喜びでございます。

昨年9月、電気学系の加藤ひとし先生が加療中のところ逝去されましたことは、我々教職員だけでなく多くの卒業生にとつて痛恨の極みとなりました。加藤先生は2004年の工学部改組に伴って、基礎教養教室から電気電子情報工学科へ移籍され、それ以降、13年間にわたり多くの卒業生を輩出し、とりわけ大学院生を精力的に指導されてこられました。このように教育的側面だけでなく、一方でハイテクリサーチセンターではリーダーを務められ、研究的側面でも尽力されてこられました。この場をおかりして、卒業生の皆様とともに哀悼の誠を捧げたいと存じます。

また、2017年4月より元木誠先生が情報学系の教授として移籍されました。それゆえ、電気学系の専任教員は7名となり、特約教員2名を加えても、総勢教員9名、助手4名というコンパクトな世帯ではございますが、精鋭部隊で前進してまいります。

電気学系は、現代社会のインフラの一端を担っている電気電子分野、そして超高齢化時代の到来に備えた健康・医療機器や健康増進のためのスポーツ科学分野、及び関連教育を行っています。次の世代の若人らが、キリスト教教育を礎に、電気・電子分野、健康・スポーツ計測分野は勿論、理工学部他の分野の知識を横断的に学び、専門分野の境界に囚われない幅広い教養と知識を修得して、社会にとび立てるよう、教職員一同尽力いたしております。

数年前に1号館裏の侍従川側の歩道に桜の木が植えられ、今年も入学生を迎えるタイミングで綺麗に咲いておりました。その写真(2017年4月撮影)をご覧になって母校を思い出していただきたく存じます。改めまして、今後とも、卒業生の皆様からの厚いご支援とご協力をお願い申し上げる次第でございます。末筆ながら、皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念して、ご挨拶にかえさせていただきます。



「企業と大学との交流会(賀詞交歓会)」について

副幹事長 波多江 修治
(電気77年度卒)

今年の「企業と大学との交流会(賀詞交歓会)」は、1月20日(金) 関東学

院大学横浜・金沢八景キャンパス構内で開催致しました。この交流会も後輩現役学生の就職支援を部会がお手伝い出来ないかとのOBの声を受け、大学の先生方、電気電子情報工学(でんき)部会(OB)と学生の交流を主旨としていた賀詞交歓会を、「企業と大学との交流会」としてOB関連企業各社様のご協力を頂き、大学と部会共催で就職支援を主旨として企画開催し今年4回目となりました。

「企業と大学との交流会(賀詞交歓会)」は、2部構成で1部は5号館101ホールでOB関連企業他14社と多くの企業様にご参加頂き時間も延長しての説明会となりました。2部は場所を代え12号館Aフロアで学生・企業・学校の先生方・サポートクラブの皆様・部会OBとの直接コミュニケーションができる懇親会の場を例年同様設けました。約40名の学生の皆さんや多くの先生方、関係者の皆様にもご参加頂き盛況のうち無事終了致しました。このような形での開催は、各企業人事担当の皆様からは今回も好評で次回も是非参加したいとの声も多く聞かれる中、参加企業様も年々増え続けております。また学生の皆さんにも好評でしたので、来年も引き続き恒例の就職支援行事としての開催を継続して行きたいと思っております。今後、各関係の皆様からご意見を頂戴し、「企業と大学との交流会(賀詞交歓会)」をより良いものにと考えております。最後にありますが、開催に当たりご尽力・ご協力頂きました皆様にご誌上をお借りしてお礼申し上げます。

1969年度工学部電気工学科卒業の照喜名光弘氏 経済産業大臣より電気保安功労者表彰を受賞

記述 岡田 光晴 (電気'69年度卒)



1969年度(昭和44年度)卒同期の照喜名君が経済産業大臣より電気保安に関する栄誉を受賞しましたので報告いたします。

照喜名氏は1969年度工学部電気工学科を卒業後大学院に進み、修士課程修了後沖縄電気保安協会に勤務し、40年間電気保安業務に従事した。この度の受賞は、沖縄電気保安協会理事退任後、沖縄県消防設備協会に移り、常務理事として電気保安に関する業務、特に教育推進や安全思想の普及などに永年にわたって努力してきたと認められたものである。

また、一昨年日本電気協会が電気保安に優れた業績を上げたものに授与する「湛澤賞」を受賞したことが評価された。

照喜名氏は「新人消防職員への電気保安講義など、人材育成への取り組みが評価されて嬉しい。近頃は電気設備に起因する火災も多いので、さらなる電気保安活動に努めていきたい」と受賞の抱負を語った。

(一部沖縄建設新聞より記事引用)

会計担当幹事 小川 博芳 (電気'77年度卒)
田中 高洋 (電気'99年度卒)

2016年度の年会費・E&C育成基金納入についてのお礼

同窓生の皆様お元気ですか、7月1日に金沢八景キャンパス2号館第4会議室にて評議員会が開催され、2016年度の事業及び収支決算、2017年度の事業計画、予算案が可決承認されました。年会費は128名、E&C育成基金は42名(62口)から納入頂きました。誠に有難う御座いました。

2011年3月11日の東日本大震災、原発事故とその爪跡は今も残り、昨年4月に発生した熊本地震の一日でも早く復旧、復興を願います。世界の情勢も不安定で、このような時期だからこそ、「人と人との支えあい」を大切にしたい社会構造が求められると思います。2017年度は震災後の復興に向けて更なる日本全体が一致団結がんばる年です。

でんき部会としても、大学、同窓会、在校生が丸となる活動を実施すべく皆様の積極的な活動参加に期待しております。活動については部会のホームページをご覧下さい。

2017年度も引き続き在校生の論文・研究発表に奨励賞として金一封の贈呈を致します。論文奨励賞、研究発表奨励賞は在校生の励みとなり、また同窓会との相互の親睦が図れることで継続を強く推進したいと思っております。近年は同窓会の活動に在校生の学生会から積極的に参加をしてくれましたので、先生、在校生と同窓生等相互の親睦が計られ充実してきたと思っております。

また、近年は小児化、経済状況等により受験生の減少、卒業生の就職難も聞かれています。1月の賀詞交歓会時には在校生との懇談に期待し、皆様のご協力の程よろしくお願いいたします。

同窓生の皆様には、年会費、E&C育成基金納入に対し、お礼を申し上げますと共に、これからも同窓会活動にご協力の程お願いいたします。

なお、年会費、基金納入者氏名を別刷りに掲載させて頂きました。

年会費 2,000円

郵便振込口座番号

00250013122193

加入者名

関東学院大学燦葉会

でんき部会

年会費の納入には次の方法でお願いいたします。

1. 同封の払込取扱票により郵便局にてお振り込み戴く方法。

2. OB会の各イベント開催時、現地にて現金納入を戴く方法。

金納入を戴く方法。

ホームページだより

ホームページ担当幹事 佐々木 正哉 (情ネ'07年度卒 電博前'09年度修了 電博後'15年度修了)



お世話になっております。燦葉会でんき部会HP担当幹事を拝命しております情ネ1回生佐々木と申します。

昨年度の評議会にて、部会名称変更が了承され、本年度からでんき部会へと電気電子情報部会が変更されました。それに合わせて部会のホームページについても、ホームページのデザインや内容を見直し、部会の活動・卒業生の活躍だけでなく、現役の学生・教員など大学の状況についてもお知らせしていきたいようにして、皆様に見ていただけるページを作成・運営をしていきたいと考えております。さらに、SNSなどを用いて皆様へのさらさら新しい情報やお知らせをする方法についても検討しております。

また管理体制に関しては、本年度より新たに里見卓哉幹事にもHPの管理を一緒に進めていただくことになりました。今後は、里見幹事と協力して、ページの管理体制から皆様に見ていただけるページを目指していきます。

最後になりましたが、HPなどでは部会の活動だけでなく、会員の皆様からの記事も掲載いたしましたので、掲載してほしい情報や記事がございましたら、次のメールアドレスまでご連絡下さい。今後とも皆様の同窓会活動へのご協力のほど、よろしく御願い致します。

kanri@kgudenki.jp

行事案内

2017年度総会開催のご案内

本年度の燦葉会でんき学部会の総会は、見学会を行う予定です。

日にち…2017年11月

場所…未定

詳細は決まり次第、部会のホームページに掲載いたします。

2018年賀詞交歓会のご案内

4年間、就職活動を行う学生への支援の場として、OB関連企業各社様のご協力を頂き大学と部会共催で「企業と学校との交流会」(賀詞交歓会)を開催致しました。好評につき、今年度も継続して行きます。

日にち…2018年1月(予定)

会場…横浜・金沢八景キャンパス

2017年度卒業祝賀会開催のお知らせ

恒例となりました、学系、学生会、部会の共催による卒業祝賀会を左記の通り開催いたします。年度末の行事になります。部会として新入会員としての歓迎会も兼ねておりますのでOB・OG各位の積極的な参加をお願いいたします。

日時…2018年3月24日(土)

16時~19時

会場…神奈川県民ホール「英一番館」

(予定)

各行事の詳細は決まり次第、部会のホームページ <http://kgudenki.jp> に掲載いたしますので、そちらを参照して下さい。

我が恩師 川上親孝先生への弔辞

評議員 福本 博 (電気65年度卒)

川上先生、謹んでご逝去を悼み、生前の暖かいご指導に改めてお礼申し上げます。

あまりにも急なお別れで本当にびっくりです。たった4週間前にお伺した時はご機嫌よろしく再会を約束しておりましただけに非常に残念です。先生とおつきあいは長く、大学入学以来公私にわたって指導いただき人生の恩師あり、社会に出てからも私の親代わりであり兄貴でもありました。

私が4年生卒論で川上研究室にお邪魔した頃は、東京オリンピックピクが終わった後の就職氷河期であったので、先生は授業の合間をぬって学生のために就職支援に奔走なさっていらっしやいましたね。お若いときは大学の夏冬休みには各地の高校へ受験勧誘のために巡回訪問を、また大学紛争の時は大学と学生の仲裁役を買って出て納めていただいたことも、そして工学部長、入試局長、大学改革委員長、大学院設置に奔走されたとお聞きしました。授業では厳しくも、優しい先生でした。時には先生が夏の野島のBBQ、秋の追浜での合コンも企画していただき、お忙

しい中でも学生と一体の生活でしたね。

個人的には遠く離れた故郷をもつ貧乏学生の我が身を案じ、正月には御宅に招いていただき、鎌倉八幡宮の初詣、奥様のお手製のおせち料理に、あのふるさと九州の味が一生忘れられません。そして社会に出ては、快く仲間を受けて頂き、その後夫婦共々長年のお付き合いを賜り、また数度のリストラに遭遇し相談に行った時も優しく出迎えていただき、奥様のおいしい手料理と薩摩焼酎を横に「困難汝を玉にする」の格言で「じつと我慢して大局を見誤るな」と諭されました。そのような先生は、あの薩摩の西郷どんのように大きく輝いて見えて、折々に人生の助言をいただきまました。

2010年 先生の叙勲の秋 先生が以前からぜひ行きたいとおっしゃっていた佐世保に九州へ帰省の途上の立ち寄りがついに実現しましたね。佐世保は旧日本海軍の一大基地、先生が旧制 鹿児島一中時代 学徒動員で寄宿された場所探しへ。先生が感激のあまり目頭が潤んでいられたね。

どんなにつらい経験をされていたのでしょうか。その夜は平戸泊り、満月の明かりに照らされた渦巻く海流をホテルの中からジーと見ながら、長時間 我が人生を振り返り話され、人生後戻りできない虚しさを悟りながら、あと残りの人生を幸多かれと、翌朝ザビエル教会で一緒にお祈りしましたね。

あれから6年静かにゆったりと余生を送られるご夫婦二人の生活をうらやましく見守ってきました。まだあと10年以上少なくともいてほしいと願っていましたが、残念です。

川上先生のこれまでのお導きと愛に心より感謝しながら、安らかに永遠の眠りにつかれますようお祈りします。いづれ天国でお会いすることになるでしょうが、しばしのお別れを申し上げ弔辞とさせていただきます。

平成28年9月3日

合掌



2016年正月 (奥様と私の妻4人で)



川上先生葬儀にて



2012年3月24日 電気電子情報工学科
卒業祝賀会にて



2010年11月13日 電気電子情報工学科
設立六十周年記念祝賀会にて



2013年11月9日 電気電子情報工学部会
総会にて

訃報

長年大学で教鞭をとられていた

川上 親孝 名誉教授

が2016年8月27日に86歳でご逝去
されました。

ここに謹んで哀悼の意を表すとも
にご冥福をお祈りいたします。

現役で大学で教鞭をとられていた

加藤 ひとし 教授

が2016年9月20日に57歳でご逝去
されました。

ここに謹んで哀悼の意を表すとも
にご冥福をお祈りいたします。

新卒業生の声

学生から社会人

関東学院大学 理工学部 第一期生
健康・スポーツ計測コース

根本 鷹彦

(健スポ'16年度卒)

今年、3月23日を持ちまして、関東学院大学を卒業致しました。卒業から二か月ほど経ち、学生時代と社会の違いが明確であることを改めて理解致しました。今回、同窓会誌に自分の記事を掲載してくださる機会を頂き、非常に光栄で御座います。今までの経験を振り返り「学生時代の生活」及び「社会人としての生活」を報告させて頂きます。

「学生時代の生活」について

学生時代において、自分が最も力を入れて取組んだモノは、サークル活動です。大学一年生の春に「関東学院大学『誇咲』」に所属し、大学三年生の秋まで「いつまでも心に残る青春時代」を過ごしました。多くの仲間に出会った環境は自分を大きく変えてくれました。どの学年の仲間にも感謝しかありません。今、社会に通用する自分を作り上げたのは、サークル活動然り、充実した大学での生活に間違いありません。また、同年度の仲間にも恵まれ、入学から卒業まで切磋琢磨し合える親友達に出会えました。今でも連絡を取り合い、

楽しい情報共有を欠かさず行っております。関東学院大学に入学し、無事卒業できた事が、今の自分にとって「最大の誇り」で御座います。

「社会人としての生活」

「ホテルマン」として社会に出た今、毎日が学びの場で御座います。それは「業務面」だけでなく、「精神面」人としての礼儀を学ぶ機会が多く御座います。今まで行ってきた事の殆どを改めていく日々は、自分を変化させる大切な環境下であり、全力で取り組んでおります。現在、石垣島での運営支援を終えて、岩手県盛岡において、ホテルの運営支援に携わっております。全国に飛び回る部署である故、落ち着きはありませんが、短期間で経験豊富になり多くの方に自分を知って頂ける事が、最大の利点で御座います。今現在の自分の夢は「日本を飛び回り、多くの人に根本鷹彦を知って頂く事」です。その為に、今この時を大切に、自身の動きで道を広げていきます。サークルに所属していた頃から「小さな一歩が大きな進歩」という言葉を掲げ、失敗を恐れず、夢を追いかけております。まだまだ止まる気は御座いません。

以上で「過去と今の振り返り」を修了致します。

このような機会を与えて下さり、誠にありがとうございます。